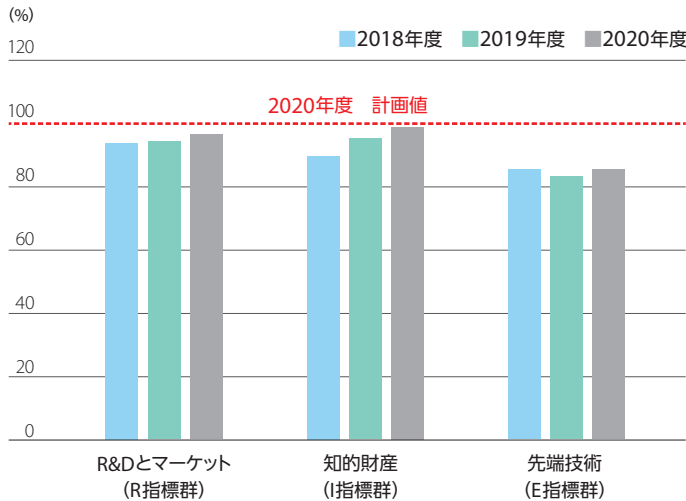


MOT Management of Technology

MCHCグループは、技術力やイノベーション力を可視化し、改善の道筋を示すMOT指標とこれに関する目標を設定しています。「APTSIS 20」期間においては、MOT指標とその目標によりフォーカス市場における次世代事業の実現に向けた取り組みの進捗を管理してきました。なお、本指標は2017年4月の三菱ケミカル発足を機に見直し、2018年4月に現在の形となりました。

イノベーションの目標(MOT指標のKPI)と実績

過去3年間のMOT指標達成率の推移



レビュー

R&Dとマーケット、知的財産は目標をほぼ達成するも、デジタル成熟度を含む先端技術は目標未達

現在のMOT指標は、R&Dとマーケット(R指標群)、知的財産(I指標群)、先端技術(E指標群)の3つの群から構成されています。R指標群とI指標群は2018年度から2020年度の期間において着実に改善し、最終的に2020年度の目標をほぼ達成しました。これは、国際特許出願や新製品の販売が堅調であったことによります。しかしながら、E指標群は想定したようには伸びませんでした。この課題を解決するために、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進をはじめ、レベルアップに向けた全社的な取り組みを精力的に進めていきます。

デジタルトランスフォーメーションの推進

E指標群の重要指標である「デジタル成熟度」は、右表の13項目で測定します。各項目の進捗度合いを4段階で評価し、最終的なデジタル成熟度は、これらを統合して数値化します。全ての項目が最終段階(Advanced)にある場合は100%となります。

デジタル成熟度は毎年上がってきてはいるものの、2020年度は61%という評価にとどまっています。当社事業におけるDXの重要性に鑑み、さらなる成熟度向上に向けて、引き続き重点施策として取り組んでいきます。

デジタル成熟度の評価項目

| 分類 | 項目 |
|-----------|-----------|
| 戦略 | DX戦略 |
| | 発信・浸透 |
| 組織・人材 | 推進体制 |
| | 人材育成 |
| データ基盤 | データポリシー |
| | データ基盤・運用 |
| ビジネスプロセス | サプライチェーン |
| | 製造 |
| | 顧客接点 |
| | R&D |
| | コーポレート機能 |
| ビジネスモデル変革 | ビジネスモデル変革 |
| | メガトレンド |

新中期経営計画下におけるMOT指標について

MCHCグループの競争力を継続的に向上させるには、技術力の正確な測定が不可欠です。新中期経営計画「APTSIS 25」では、シンプルさ、透明性、客観性のさらなる向上をめざし、新しいMOT指標を設定しました。より深い洞察を得ることにより、次世代ビジネスの実現に向けた取り組みを加速させていきます。